平成26年度　智頭農林高等学校　第三者評価　評価書

【講評】

智頭農林高校は、豊かな自然に恵まれた環境の中で、これからの時代が求めるニーズに即応した農業学科３科６コースを設置する専門高校である。

学校の教育目標は、「一人ひとりの生徒を大切に」を教育の根幹におき、勤労と責任を重んじ心身とも健康に地域産業及び社会の発展に貢献できる人材を育てることにある。

そしてその中長期ビジョンのもと、本年度は、（１）学習指導の充実、（２）生徒指導の充実、（３）生徒支援の充実、（４）地域連携の充実、を重点目標として掲げ、それぞれ具体的方策に落し込み、学校長を中心として、全教職員がコミュニケーションを図り教育活動に組織的に取り組み多くの成果をあげている。

学校長の強いリーダーシップの根底に生徒、教師及び地域へのゆるぎない愛情が感じられる。教職員は相互の信頼のもとに学校課題を共有し合いながら重点目標への取組をしていることが感じられ、それは即生徒にも反映されるものである。

智頭農林高校の生徒として「自信」につながる取組がなされている。それが「覇気」「積極性」を生んでいる。具体的には、観光甲子園での優勝、体育系課外活動（部活）での全国大会での活躍、ボランティア活動での表彰、食品の商品化などがある。今後は智頭町とより一層連携して学校でする中で、学校のさらなる特色づくりの施策を検討して頂きたい。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

① 「学び合い」のある授業を実施し、生徒の習熟度に応じた学び直しによる基礎学力の向上を図り、またＩＣＴを活用し学習内容により興味を持たせるなど、多くの教職員が授業の工夫に取り組んでおり、より一層充実していただきたい。

② 間伐材を活用したバス停留所の製作、板井原資料館を活用した地域交流、ちのりんショップ、どうだんまつり、農林祭、桜土手の清掃活動など多くの行事に地域と連携して取り組んでおり、地域あっての学校、学校あっての地域ということが具体的によく理解できた。

③ 特別支援教育の研究指定校の成果を土台に、指定期間終了後も個別の支援計画や技術のノウハウを継続研究し、その研究成果を情報発信していただきたい。

④ 進路指導計画が３年間にわたって構築され、キャリア教育が充実していることが進学・就職率の高さに反映している。学校長自ら個別面接を行い、早い段階より生徒の希望、現状を把握し、その情報を全教職員が共有するとともに、インターンシップを積極的に活用して早期の進路実現を支援している。

⑤ 観光甲子園での見事な成果は、日常的に発信される学校便りやホームページなどの成果を初めとする学校教育の集大成であると思われる。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

① 毎年定年割れの状況が続いている。智頭農林高校のもっている特色、長所、強みに磨きをかけるとともに、中学生の体験入学の工夫、インターネット活用等による情報発信をより一層強化して応募者数の増加につなげていただくようお願いしたい。

② 朝読書は読書の習慣化を目的ととらえ、卒業後の社会で役立つ課題解決力の育成に力を入れるため、タブレットの活用と併行して情報・図書資料を使った調べ学習をさらに活性化させていただきたい。

③ 部活動に関しては、さまざまな要因があろうと思われるが、教育活動の重要な位置を占めるので、より一層の工夫をもって活性化に取り組んでいただきたい。

④ 教職員におかれては、生徒指導について、カード指導導入など大変な熱意をもって取り組んでおられることは充分理解できるものの、中途退学や学校生活が安定しない生徒もおり、個々の生徒に応じた適切な指導を望む。

⑤ 進路指導室及び図書室の位置は利便性が良いとは言えず、改善していただきたい。また、進路指導室に保存されている資料の内容や閲覧の利便性につき一考をお願いしたい。